

次期中期経営計画の考え方について

目次

- 1 横浜市下水道事業中期経営計画の位置づけ
- 2 横浜市下水道事業中期経営計画策定の方向性
- 3 ロジックモデルを採用する理由
- 4 ロジックモデルの考え方を踏まえた体系づくり
 - (1) インパクトの設定
 - (2) 施策の設定
 - (3) アウトカム～インプットの設定

1 横浜市下水道事業中期経営計画の位置づけ

本計画は、上位計画（横浜市中期計画2022）との整合を踏まえ、以下の二つの側面により構成されています

■ 持続可能な下水道事業運営を推進するために策定する **4年間の実施計画**

■ 将来にわたって安定的に事業を継続していくための「**経営戦略**」

下水道事業は「独立採算制の原則」と「雨水公費・汚水私費の原則」のもと、自立性をもって経営しています

現行計画の期間 : 2022(R4)～2025(R7)

次期計画の期間 : 2026(R8)～2029(R11)

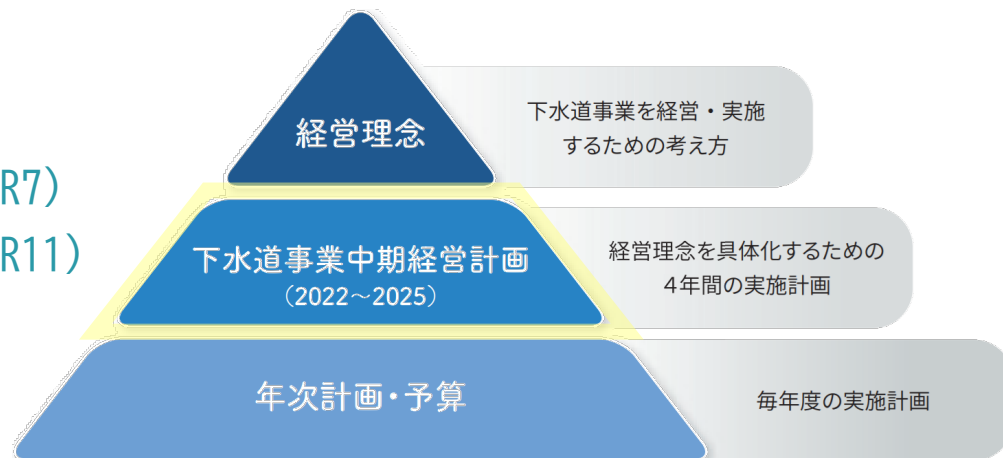


図1 計画の位置付け

2 横浜市下水道事業中期経営計画策定の方向性

中期経営計画については、以下の「基本的な考え方」に基づいて策定していきます

○ 災害に強いまちづくりのため、浸水対策と地震対策を強化

- ・ 浸水リスク（浸水想定、浸水の影響度）の高い地区から事前防災を推進していきます
- ・ 発災時においても重要施設のトイレ機能を確保します
- ・ 緊急輸送路の交通機能を確保するため、マンホールの浮上対策を推進します

○ 下水道サービスの持続的な提供のため、老朽化対策を強化

- ・ 365日24時間、下水道サービスを安定的な提供を継続します
- ・ 下水道の損傷による社会的影響を生じさせないため、効率的に老朽化対策を推進します

○ 持続可能な事業運営を推進

- ・ 長期的な組織運営、財政運営を見据え、持続可能な事業運営を推進します

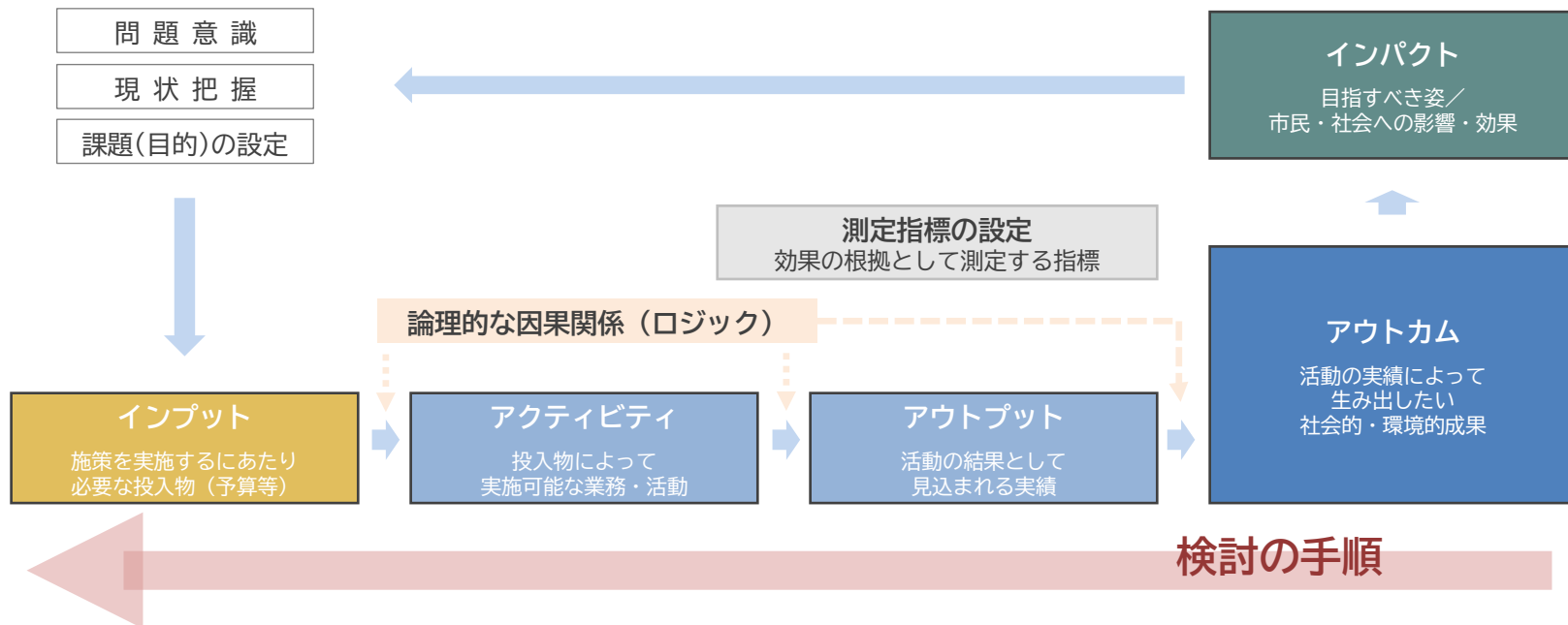
○ 市民の理解・共感を得る「施策効果の見える化」の徹底

- ・ ロジックモデルの考え方を踏まえ、施策がどのような成果につながるかを明確にします

3. ロジックモデルを採用する理由

市民の皆様への伝わりやすさ、効率的な事業運営の重要性を念頭に置き、
バックキャスト的にロジックモデル※の考え方を踏まえた計画とすることで、
施策がどのような成果につながるかを明確にします

※ロジックモデル：論理的な因果関係を明確化し、課題から最終成果に至るまでの道筋を論理的・体系的に示したもの

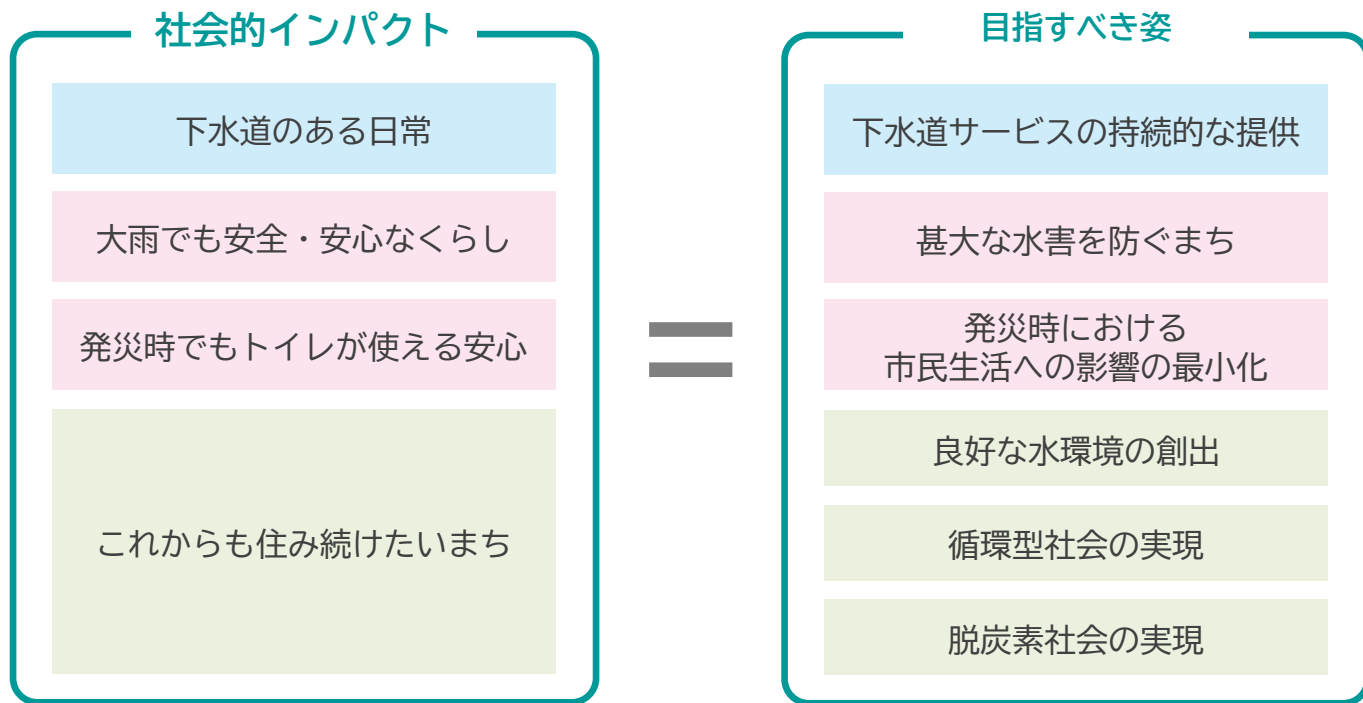


4 ロジックモデルの考え方を踏まえた体系づくり

(1) インパクトの設定

社会的インパクト（＝市民に与える影響）は下水道事業による便益（ベネフィット）を示し、

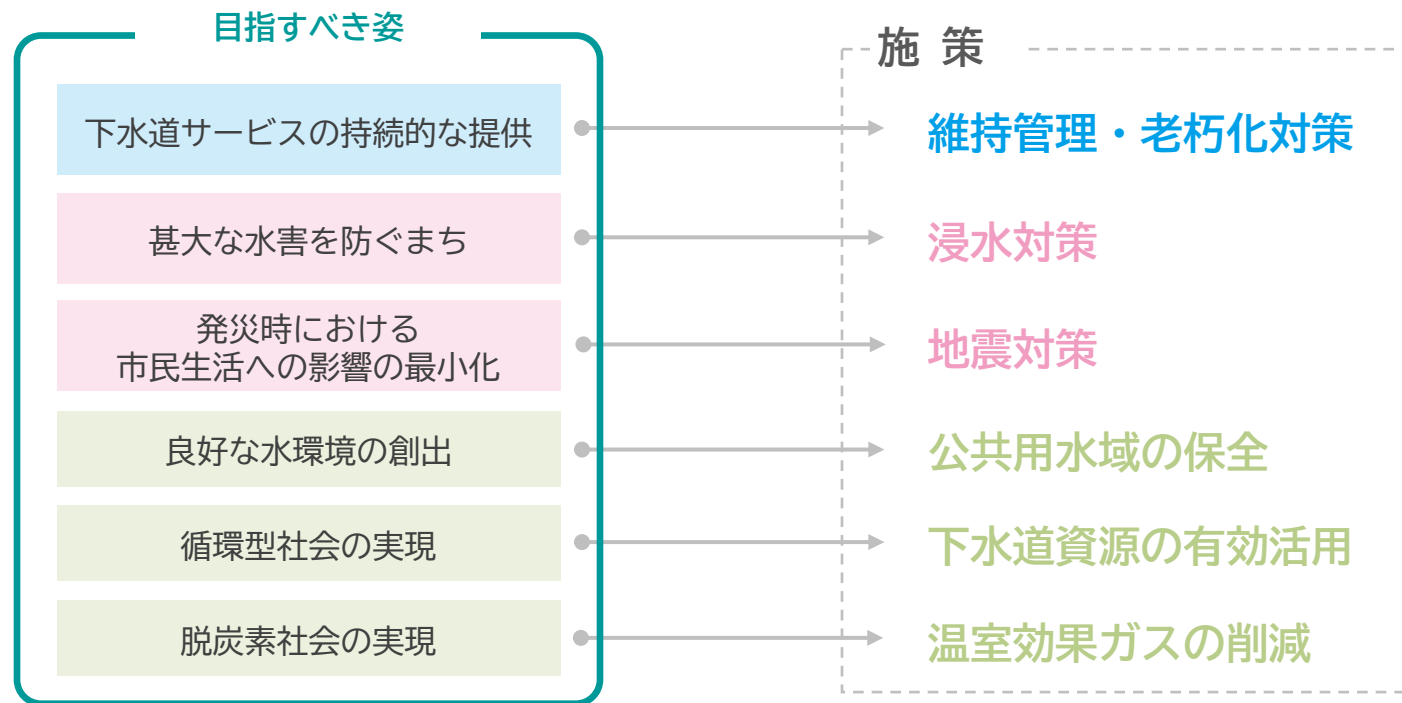
目指すべき姿（＝行政が目指す姿）を設定することで、より一層、市民がイメージしやすい将来像を提示



4 ロジックモデルの考え方を踏まえた体系づくり

(2) 施策の設定

目指すべき姿（＝行政が目指す姿）を達成するために、必要な「**施策**」を設定



4 ロジックモデルの考え方を踏まえた体系づくり

(3) アウトカム～インプットの設定

- ・「目指すべき姿」を達成するために設定した施策ごとに、必要なアウトカム、アウトプット、アクティビティを設定するとともに、インプットを確保
- ・効果の根拠として測定する指標を設定し、評価・管理することで確実に施策を実施

